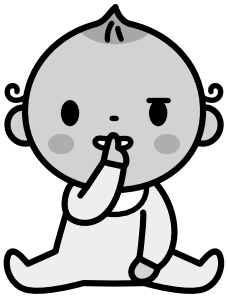
子育てアドバイス

ちょっと気になる 指しゃぶり

小さな子でよく目立つのが指しゃぶりですね。赤ちゃんは生まれてすぐに指しゃぶりをする子もいます。これは生まれたばかりで、自分を取り巻く環境の認識が白紙に近い新生児が、すぐにお母さんの乳首や哺乳瓶に吸い付くのは、唇のまわりの感覚が敏感にできており、そこへの刺激が心地よいから、唇にふれたものにパッと吸い付くからだといわれているそうです。そこで自分の指にも吸い付く赤ちゃんがいるのです。



1度指しゃぶりを覚えた赤ちゃんは、自分のからだをはいはいやあんよで移動出来るようになるまでは、指はとても新鮮な身近な遊び相手です。

はいはいができるようになると、床に落ちている小さなごみやおもちゃなどを次々に口に入れて味わうのです。これも感覚で味わって、ものを確かめているのです。お母さんは特に注意しなければなりません。誤飲に気をつけましょう。

1歳すぎて歩行ができると、手が自由になり、おもちゃを持って遊んだり、体を思いのままに移動して遊べるようになり、指をしゃぶって感覚や感触を楽しむという単純な遊びはだんだん必要なくなっていきます。しかし、退屈して一人で遊びがつくれなくなったとき、眠くて遊ぶ気力のないとき、眠くないのに布団の中に押さえ込まれたときなど、手持ちぶさたをしのぐために・・・。

3歳をすぎるころには、子どもの遊びもだいぶ進歩してきて、おもちゃで複雑な遊びを構成したり、お友だちと遊べるようになり指しゃぶりは目立たなくなってきます。でも、夜寝る前、退屈しているとき、テレビを見て手が暇なときは、まだ続きます。

5～6歳すぎまで続いている子がいます。このころの指しゃぶりは、欲求不満や愛情不足ではありません。〔少し安心してほっとしている人もいるのでは・・〕指は退屈しのぎのもっともてっとりばやい切り札なのです。

ただ、吸いダコや、歯並びに影響が出たらと心配になります。身辺自立ができたら手を使って遊びが十分に出来るようになると退屈しのぎや気分転換ぐらいでは、影響はあまりないそうです。永久歯に生え変わるころまでになくなるのが、ひとつの目安ともいわれています。

たまたま、小学生になっても指しゃぶりをこよなく愛している。その時間はすてきな空想の世界に浸っていることが多いそうです。大人の目には退屈そうに見えても、見た目と見えない心の中はおおちがい。また、しかられた時などに指をしゃぶって心を落ち着かせ、落ち着くと遊びだすという一過性のものです。ところが現実に不安のある子は指しゃぶりのほかにも不安行動が見られるので冷静に見てみましょう。成長段階のひとつとして現れる単純な指しゃぶりと混同しないようにしましょう。注意しすぎはより癖を身につけてしまうことが多いので、楽しくて魅力的な遊びを親がいっしょに遊んだり相手をしてくれる関係がつくれれば、不安も解消していくでしょう。

子育て支援センター
☎52-2315

お詫びと訂正

広報みなみふらの9月号5ページに掲載しました「農業委員会委員が決まりました」の記事の中で、幾寅・佐々木薫さんの農業委員選任回数を「2回」と掲載しておりましたが、正しくは「10回」の誤りでした。左記のとおり訂正し、紙上をもちまして深くお詫び申し上げます。

佐々木　薫
①幾寅
②勤労者企業組合参事・75歳
③議会推薦・10回（現）